

第7回SGRAチャイナ・フォーラム
「ボランティアと志願者論」

期日 2013年5月22日
会場 北京外国語大学・日本学研究センター
講師 宮崎幸雄（日本YMCA同盟名誉主事）

講演レジメ

I. 私のボランティア原体験<ベトナム戦時下のボランティア活動>

II. 自然災害救援とボランティア活動

1) 災害救援活動とボランティア活動

PPT事例(0)

阪神淡路大震災（1995年1月） 東日本大震災（2011年3月）
四川大震災（2008年5月）

2) 阪神・淡路大震災 意識調査-1- 1995年

PPT事例(1)

阪神・淡路大震災復興ワークキャンプ参加者意識調査

① ボランティア経験 ② 性別構成 ③ 参加者の属性

3) 阪神・淡路大震災 意識調査-2- 1995年

PPT事例(2)

① 参加動機 ② 活動への期待 ③ 活動の満足度

4) 阪神・淡路大震災 ワークキャンプの評価 1995年

PPT事例(3)

① 相互支援のシステム ② ボランティア活動の意義 ③ 自己評価 ④ 助け合う心
⑤ ボランティアの役割

5) 四川省震災復興 CODEレポート 2012年/2013年

「ボランティア元年」と呼ばれる背景

イ) 救援活動参加者の属性、直接参加者数、後方支援者数、「80後」世代。

ロ) 北京オリンピック（2008年8月）に動員されたボランティア50万人。

PPT事例(4)

① 「公民社会」と民間団体の躍進 ② 復興発展の不均衡と格差・不平等感

② 海外民間団体との交流・防災共同学習

③ ソシアル・メディアとボランティア力の醸成 ④ 「80後世代」の人的資源

6) 四川省災害支援医療活動 2008年

PPT事例(5)

SGRA華西医院：災害医療・看護活動

① 災害看護ガイド他、医療関係の翻訳。災害看護ガイド中国語バージョンを完成。

② 日本国際緊急救援医療チームと、中国災害医療チームによる新中国建国後初の中日合同災害医療活動が華西医院・石康院長の指揮の元で活動開始。

③ 中日両国の専門医療看護の協力・共同研究の新しい時代の到来か？

<DVDスライドショー「日本YMCA 3・11の記録」 5分30秒>

Ⅲ 東日本大震災復興期とボランティア活動

1) 復旧から復興へ 2011年

PTT事例(7)

- ① 自立への支援
- ② 生きる・いのち <自助・共助・他助>
- ③ 共生社会

2) 変容するボランティアの役割

PTT事例(8)

- ① 公共的事業に対する住民の参加と信頼関係
- ② 出入り自由のゆるやかな集団 (レジリエンス)
- ③ 被災者と共に汗を流し、相互信頼を築いた心の共同体 (心の故郷)
- ④ 復興を支える人材の育成 (行政計画にパートナーとして共同参画)

3) 3・11 後に見る若者の価値観の変化

- ・ 人とのふれあい (家族の絆) 人と人の支え合いを通して幸福感 (愛と希望) を深めた。
- ・ いのち (死生観) と生きる (共生観) ことを真剣に考えた。そして、“物・金・第一” の生き方より幸せな生き方は何かを考え始めた。(GNH)
- ・ 異文化交流の体験が、過去の戦争による負の歴史と国境を越え、同情 (sympathy) を超えた共感 (empathy) が自他一体感 (unity) を呼び起こし、正義と平和な世界の創出を考えた。(マイケル・サンデル教授)
- ・ 他文化間の人的交流の促進・意見交換・対話訓練・歴史 (近代史) の学習など。

Ⅳ 中国の志願者活動

1) 中国志願者活動の制度

PTT(9)

① 青年志願者管理方法・2005年制定

中国8省10市11自治区でボランティア管理条例が制定され、国家の管理下、青年志願者協会が窓口となり海外のNGO/NPOと交流プロジェクトを実施

② 社区志願者管理方法・2007年制定

地域の共益的なボランティア活動を展開、地方自治体では政府の事業を推進する

2) 中国志願者活動の課題

PTT(10)

- ① 「公民社会」は国家と政府から独立したものでなくてはならない。中国はすでに公民社会に入った (北京大学公民社会研究センター)
- ② 結社の自由が保障されていない現状では「公民社会」と云うには程遠い (清華大学公共管理学院 NGO 研究所)
- ③ 両者の目指すものは単位社会から公民社会の形成であり、それを構成する主体はNGO組織とNPO組織である。
- ④ 自由で独立の意志を持ち自主的に地域社会の一員として、権利を行使し責任を果たす活動を「80後世代」に見る。

【中国のボランティア100人に聞いてみた】

- ボランティア精神は儒教の教えにあり、学校教育を通して精神的には内在している。
- ボランティアに対する報酬は実費主義で労働の対価ではない事は理論的に理解する。
- ボランティアをする意思はあっても、生活にゆとりがなくては参加できない。
 - *2012年一人当たり名目GDP 日本 5,963 ドル 中国 8,227 ドル (2013/05/)
- ボランティア活動をする時間的余裕は高齢者や退職者にはある。特に高齢者のボランティアに関する興味とボランティアを希望する人は近年増加している。
- 後期高齢者に対するボランティアの手助けの必要性は年々増加する一方、老老看護の実態と限界も見えてきた。
- ボランティアとは何か？
 - *2012年、北京市の中心部の豪雨被害によって浸水した家屋は水没して一人が死亡した。
ボランティアで協力したいと駆け付けた一般市民は「社区青年志願隊」のユニフォームを着たボランティアに参加を拒否された。
- ボランティアは安価な労働力ではないか？
- ボランティアは何をするのか？
 - *上海・香港 YMCA の地域福祉センターでの活動が紹介された。
- ボランティアの自発的行為と無償の活動？
- ボランティアとプロ（専門家）の違いは？役割の違い、学歴有無、身分の違いはあるのか？
- ボランティアの教育訓練はどのようにして行われるか？
- ボランティアのトレーナーはどのように選ばれ、どのような資格・権限を持っているのか？
- ボランティアの社会的認定制度が必要。
- ボランティア活動の環境を整えネットワークを広げる。
- ボランティア活動の育成・保護・推進に関する法令の整備の必要がある。
- 学校教育とボランティア活動、指導要綱、表彰・認定制度を検討する。

以上